

事後評価書

事業名	国補通常砂防事業	事業区分	砂防事業(国土交通省)	室名	河川・砂防室
事業概要	工期 (下段当初)	平成9年～平成16年	全体事業費 (下段当初)	570百万円(負担区分：国1/2、県1/2)	
		平成9年～平成14年		490百万円(負担区分：国1/2、県1/2)	
事業目的及び内容		<p>場所：三重県南牟婁郡御浜町川瀬地内</p> <p>溪流名：二級水系 尾呂志川水系 飯高町流域 滝後川</p> <p>事業目的 滝後川は、南牟婁郡御浜町川瀬地内に源を発する砂防河川で、尾呂志川に合流し、熊野灘に注いでいます。 滝後川の流域面積は0.14km²であり、流域内では山腹崩壊や河床の洗掘による、不安定な土砂の堆積が確認されています。 この土砂が大雨等の影響で土石流として流下する危険性が高く、被害想定区域に存在する川瀬集落の人家11戸のほか、国道や町道、耕地など、人命や地域の生活基盤を支える施設を保全することを目的とし事業に着手しました。</p> <p>事業概要 砂防えん堤工 1基 (H=14.5m,L=93.0m,V=5,940m³) 溪流保全工 226m</p>			
1. 事業の効果		<p>達成状況の評価</p> <p>当該えん堤を整備することにより、滝後川上流域から流出すると想定される土砂量に対し、約66%の土砂を止めることが可能となり、異常気象に対する地域の安全度が向上しました。</p> <p>a. 計画施設整備前：整備率=整備土砂量 / 計画流出土砂量= 0m³ / 10,078m³= 0.0%</p> <p>b. 計画施設整備後：整備率=整備土砂量 / 計画流出土砂量=6,674m³ / 10,078m³= 66.2%(66.2%の向上) 計画施設の整備土砂量 V=6,674m³</p> <p>当初の効果と完了後の比較結果</p> <p>保全対象 人家11戸、耕地4.0ha、国道0.1km、町道0.5km、農道0.1km、橋梁5橋</p> <p>費用対効果の分析 当初 実施していません 事後 B/C= 1.05 (> 1.00)</p> <p>以外の定量化(金額換算)できない他の効果</p> <p>地域に土砂災害に対する安心感向上効果や山地森林保全効果が発揮されます。また、砂防えん堤の修景を行うことで、景観への配慮をいたしました。</p>			

2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

当該流域は自然が豊かであり、人家等から眺望できる箇所にあることから、当該砂防えん堤は、景観に配慮する必要がありました。

事業実施において環境および景観に配慮した事項

- ・ 砂防えん堤を自然石で修景することで自然の環境に馴染ませるように配慮しました。
- 事業実施による周辺環境の変化の比較・検証
- ・ 表面を石により修景することで、擬石模様の化粧型枠と比較して、早期に周囲の景観になじませることが出来た。

3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

土地利用状況の変化

事業前と事業後で土地利用状況の変化はなく、当事業の保全対象は、事業計画時に想定したものから変化は見られません。

土砂災害に対する住民への対応

近年の異常気象による災害発生に備え、ハード事業とともに的確な避難行動に資する警戒避難体制の整備など、ソフト事業の整備が重要となってきています。

4. 県民の意見

今後の砂防整備のあり方についての参考とするためのアンケート調査を行い、次の意見が得られました。

- ・ 滝後川砂防えん堤の整備により、ほとんどの方が安心感が高まったと感じています。
- ・ 滝後川砂防えん堤の修景について、約8割の方から景観への配慮が評価され、今後の事業においても期待されています。
- ・ 平成16年の大台町や紀北町などにおける台風21号による災害を機に、すべての住民において土砂災害に対する意識が強まっています。
- ・ すべての方が砂防事業の必要性を感じています。
- ・ 今までのハード対策に加えてソフト対策を並行して進めるべきとの意見と、ソフト対策を優先すべきとの意見があり、警戒避難に関する関心も強まっています。

【その他意見】

- ・ 景観は予算次第。
- ・ 他にも危険箇所があるか教えて欲しい。

5. 今後の課題等

事業実施上の課題・問題点

すべての箇所のハード整備を完了させるには長い年月と費用が必要となります。このため今後の砂防事業はハード整備とともに、住民が的確に避難行動を行えるよう危険箇所情報の周知を図る情報提供システムなどの整備を行うソフト対策との連携により、総合的な土砂災害対策に取り組んでいく必要があります。

今後実施する事業への留意事項

当事業における景観への配慮については、住民へのアンケートにより概ね評価を得たところであるが、予算次第との意見もあり、配慮の程度により意見が分かれるポイントでもあります。

このため、砂防施設の修景や環境への配慮を行う場合は、過度なものとならないよう周辺環境の調査を行い、地域住民の意見も伺いながら現地の状況に適したものとするよう十分検討を行います。